

「須田悦弘」展 SUDA YOSHIHIRO

2024年11月30日(土)ー 2025年2月2日(日)

◆展覧会概要

普段、道端で見かけるような草花や雑草。実は本物と見紛うほどに精巧に彫られた木彫作品です。須田悦弘(1969~)は独学で木彫の技術を磨き、朴ほおの木で様々な植物の彫刻を制作してきました。須田によって生み出される植物は全て実物大で、それらを思いがけない場所にそっと配することで空間と作品が一体となり、独自の世界をつくりあげています。

本展は、東京都内の美術館では25年ぶりとなる須田悦弘の個展です。今回、須田の初期作品やドロ잉、近年取り組んでいる古美術品の欠損部分を木彫で補う補作の作品等をご覧いただくとともに、本展のための新作も公開します。

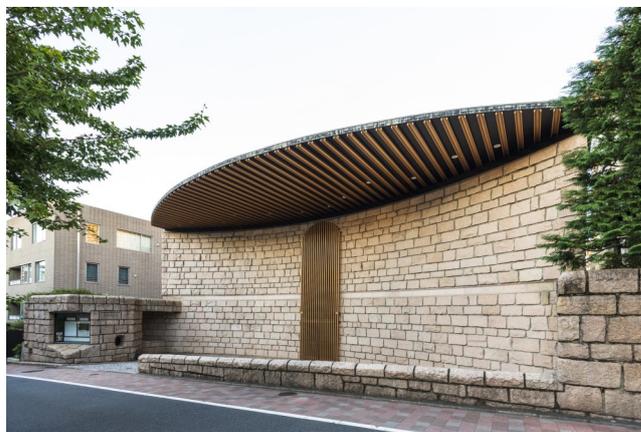
渋谷区立松濤美術館の建築は、「哲学の建築家」とも評される白井晟一せいち(1905~1983)によるものです。閑静な住宅街に位置する石造りのユニークな外壁、入口の先には楕円形の吹き抜けがあり、そこに架かるブリッジからは池と噴水を見下ろすことができます。地下2階から2階まで螺旋階段で繋がり、高い天井と湾曲した壁面をもつ展示室や、ベルベットの壁布が張られ、絨毯敷きにゆったりとしたソファが置かれた展示室など、他にはない空間が来館者を迎えます。

ここに須田の植物を配することでどのような作品となるのか。白井建築を舞台にした須田悦弘のインスタレーション作品としてもご期待ください。

②渋谷区立松濤美術館 外観 撮影:上野則宏



①須田悦弘《スズメウリ》2024年 木に彩色 作家蔵
©Suda Yoshihiro / Courtesy of Gallery Koyanagi



展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となる場合がございます。最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。

◇展覧会のみどころ

貴重な初期作品を多数出品

●多摩美術大学のグラフィックデザイン科で学んでいた須田氏ですが、授業でスルメを彫ったことをきっかけに、独学で木彫を始めました。本展では、その時の《スルメ》と、須田氏が初めて彫った植物《チューリップ》をご覧ください。

また今回、大学の卒業制作を再現して展示します。本作を公開するのは卒業後初めてのことで、当時、卒業制作展でしか見られなかった作品をお見逃しなく。このほか、学生時代に制作した小さな木彫や絵画作品も出品予定です。



③須田悦弘《スルメ》1988年 木に彩色 作家蔵



④須田悦弘《チューリップ》1989年頃 木に彩色 作家蔵



⑤須田悦弘《朴の木》1992年 ミクストメディア 作家蔵

画像は発表当時のもの。本展ではまわりの空間を新たに作成し、中に当時制作した朴の木を配し、卒業制作を再現します。



●須田氏の最初の個展は1993年の「銀座雑草論」。銀座のパーキングメーターに停めた自作のリヤカーが展示空間でした。外側はトタンで、内側には全面に金箔を施し、1本の子チコグサモドキを展示したもので、この斬新な手法は注目を集めました。

※現在、山梨県立美術館所蔵。本展には出品されません。

本展出品作《東京インスタレイション》は2回目の個展で発表されたもの。この時は銀座の駐車場を借りて展示されました。ドアから入る細長い部屋は、その奥にある朴の葉と実に静かに向き合うことのできる空間となっています。

⑥須田悦弘《東京インスタレイション》(部分) 1994年 ミクストメディア 山梨県立美術館寄託



【参考画像】「東京インスタレイション」 1994年当時の様子

●練馬区立美術館、東京都現代美術館、横浜美術館が所蔵する須田氏の作品は、現代美術の代表的なコレクターである、賛美小舎 上田國昭氏、上田克子氏ご夫妻が各館に寄贈した作品です。

横浜美術館のドローイングは、須田氏が夫妻の希望を受け、夫妻が所蔵していた作品を描いたもの。普段、制作の際にはドローイングや下絵は描かず、実物や写真を見て直に彫り出していく須田氏ですが、ドローイングも驚くべき巧みさです。



⑦須田悦弘《ベルリン》1997年 木に彩色 練馬区立美術館蔵 賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈



⑧須田悦弘《雑草》1998年 木に彩色 練馬区立美術館蔵 賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈



⑨須田悦弘《ガーベラ》1997年 木に彩色 東京都現代美術館蔵 賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈 撮影：田中俊司



⑩須田悦弘《ガーベラ》1998年以降 水彩、鉛筆・紙 横浜美術館蔵 賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈

白井晟一建築や古美術とのコラボレーション



①《春日若宮神鹿像》鎌倉時代(13～14世紀)、木彫 ※須田悦弘 補作:角・柵・鞍(平成時代)、瑞雲(令和時代) 《五鬘文殊菩薩掛仏》鎌倉時代、板絵 著色 公益財団法人小田原文化財団蔵 Photo: Hiroshi Sugimoto

●「補作」とは、古美術の欠損部を補うこと、もしくは補った作品のことを言います。2023年の須田氏の個展は、現代美術作家・杉本博司氏が展覧会名を「補作と模作の模索」と名付け、これまでは“知る人ぞ知る”ものだった須田氏の補作作品を中心に開催されました。須田氏の最初の補作作品は、杉本氏に依頼されて補った鎌倉時代の神鹿像(①)です。実際に手に取り、観察し、研究した上で補われた作品は、一見、どこを補作したのかわからないものもあり、須田氏の驚異的な観察力とわざを堪能することができます。

●渋谷区立松濤美術館の建築は、「哲学の建築家」などとも評され、独自の世界を建築に表す白井晟一によるものです。曲線を多用したユニークな建物に、須田氏はどのように植物を配するのでしょうか。本展のために何度も美術館に足を運び、展示する場所を決め、その場所のための新作も準備中です。

須田作品は、展示される空間も含めて作品です。作品を探すことも楽しみの一つで、ひっそりと置かれた植物を発見した時には、まわりの景色がそれまでと違って感じられるかもしれません。ぜひご来館いただき、須田氏の生み出す空間をお楽しみください。



⑫渋谷区立松濤美術館 エントランス



⑬渋谷区立松濤美術館 地下1階展示室



⑭渋谷区立松濤美術館 階段

※こちらは参考画像です。実際は展示室内には作品が展示されます。また、画像の場所に作品が展示されるとは限りません。

※それぞれ、キャプションの末尾に以下の情報を入れてください。
 ①、③～⑩ ©Suda Yoshihiro / Courtesy of Gallery Koyanagi
 ②、⑫～⑭ 撮影:上野則宏

◇会期中イベント

●公開制作

本展出品作家である須田悦弘氏の制作の様子をご覧ください。

日時：2024年12月15日(日)

午前10時30分～午後5時30分(適宜休憩あり)

場所：地下1階展示室(予定)

*無料(要入館料)

*事前申込は不要ですが、混雑状況により、場所の変更、整理券の配布、観覧時間の制限等をさせていただきます。その場合はイベント前日までに当館ホームページ及びSNSでお知らせします。

●学芸員によるギャラリートーク

2024年12月14日(土)、27日(金)、

2025年1月19日(日) 各日午後2時～(約30分)

*無料(要入館料) *事前申込不要

●アーティストトーク

本展出品作家である須田悦弘氏に制作について語っていただきます。

日時：2025年1月11日(土) 午後2時～(約1時間)

聞き手：当館学芸員

場所：地下2階ホール

*無料(要入館料)

*定員70名(要事前申込、応募者多数の場合は抽選)

※申込方法は次ページをご参照ください。

●館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

日時：会期中の各金曜日 各日午後6時～(約40分)

*無料(要入館料) *各回定員20名 *事前申込不要

◎アーティストトーク申込方法

往復はがきまたは当館ホームページの申込フォームにて承ります。

1通につき1名のお申込み可能。応募者多数の場合は抽選となります。

【往復はがき】〒・住所・氏名（ふりがな）・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、須田展アーティストトーク係まで。

【申込フォーム】

当館ホームページ上のイベントフォームからお申込みください。

※締切（必着）12月17日（火）

※迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に当館からのメール「@shoto-museum.jp」が受信できるようにドメイン設定をお願いいたします。なお、締切後1週間以内に抽選結果が届かない場合はお問い合わせください。

◇開催概要

展覧会名 須田悦弘 SUDA YOSHIHIRO

会期 2024年11月30日(土)－2025年2月2日(日)

開館時間 午前10時～午後6時（毎週金曜日は午後8時まで）＊入館は閉館時間の30分前まで

入館料 一般 1,000円(800円)、大学生 800円(640円)、高校生・60歳以上 500円(400円)、
小中学生 100円(80円)

＊リピーター割引:観覧日翌日以降の本展期間中、有料の入館券の半券と引き換えに、通常料金から2割引きでご入館できます。

＊()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 ＊土・日曜日及び祝休日は小中学生無料

＊毎週金曜日は渋谷区民無料 ＊障がい者及び付添の方1名は無料

休館日 月曜日(1月13日は開館)、12月29日(日)－1月3日(金)、1月14日(火)

主催 渋谷区立松濤美術館

協力 ギャラリー小柳

会場 渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
電話: 03-3465-9421 HP: <https://shoto-museum.jp>

交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分 ●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

◇次回展覧会のご案内◇

2025年2月23日(日)～3月16日(日)

「2025 松濤美術館公募展」

サロン展「温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶー青山学院中等部のとりくみー(仮題)」

同時開催「特別陳列室:所蔵品展示」

報道関係のお問い合わせ

広報担当 pr-sma@shoto-museum.jp 電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。＊画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとしてください。＊基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。
- * **会場写真のご掲載は5点ほどまでを目安にお願いいたします。それ以上の掲載をご希望の場合は事前にご相談ください。**